

区内産買い求め交流

学生と「神大マルシェ」開催
地域住民



大勢の近隣住民が集まった「神大マルシェ」
＝神奈川大学

神奈川

地域住民と
神奈川大学
(横浜市神奈川区)が協力
し、区内産にこだわった野
菜や弁当、手作り小物など
を販売するイベント「神大
マルシェ」が7日、同大で
初めて開かれた。近隣住民
と学生の交流が目的で、家
族連れらが買い物やおしゃ
べりを楽しんだ。同大の学
生団体「学生ボランティア

活動支援室」の主催。
区内の農家や、障害者地
域活動ホームなど8者が出
店。新鮮な野菜やクッキー、
ジャムなどの販売や、小物
作りのワークショップが行
われた。

開会と同時に大勢の客が
集まり、両手いっぱい買い
つけた品物を抱える人の姿
も。近くに住む女性(64)は
「地元産の野菜を買いにき

た。大学にはあまり来る機
会がないので、こういう催
しがあったよかった」と笑
顔。支援室代表で3年生の
内田佳奈さん(20)は「地域
の人がたくさん来てくれて
ほっとした。これからも定
期的に交流の場が設けられ
れば」と話す。

マルシェは、地域と大学
が連携する「まち×学生プ
ロジェクト」の一環で行わ
れた。プロジェクトは、ほ
とんど交流がなかった両者
が顔の見える関係をつくら
うと、2015年に発足。
現在は同大と地元の六角橋
自治連合会、市六角橋地域
ケアプラザが中心になって
活動している。

同連合会会長の森勤さん
(65)は、「若い人が歩いて
いるだけで、街の雰囲気か
変わる。大学のあるこの地
域のことを学生に知っても
らいたいし、その意見を聞
かなければ魅力あるまちづ
くりはできない」。今後は、
商店街などで学生のアイデ
アを実行する試みなども考
えているという。

同大教育支援センターは
「世代を超えた交流は、学
生の勉強にもなる。この活
動が、地域の課題を解決す
るような学びにつながれ
ば」と話していた。

(尹 貴淑)